

For cooperative financial institution

管内協同組織金融機関
実務担当者向け

令和3年8月17日
CHIHOMEN NEWS vol.78

コロナ禍における 企業支援の在り方・手法ゼミ

主 催 財 務 省 近 畿 財 務 局



Introduction －企画の背景－

当局では、これまでも地域金融機関向けセミナーを開催してきました。

これまでの経緯

- 1 事業性評価とコンサルティング能力向上のための連続講座
第1回（R2.1.29）・第2回（R2.2.12）
- 2 「WITHコロナPOSTコロナ企業支援の在り方・手法」オンラインセミナー
（R2.7.21）
- 3 「協同組織金融機関の使命とコロナ禍の本業支援」オンラインセミナー
（R3.3.9）

今回

これまでのセミナーをより発展させ、参加者同士のコミュニケーションを重視した内容で企画しました。

コロナ禍での厳しい経営状況やデジタル化の急激な進展等により、事業転換や再編を含めて地域企業の抱える課題が多様化する中、地域金融機関による支援能力の向上は喫緊の課題となっています。

事業者支援において、地域金融機関が抱える課題には共通する部分も多く、そうした課題へのアプローチ方法等について、**ノウハウ共有の必要性**が高まっています。

令和2年度金融行政方針～コロナと戦い、コロナ後の新しい社会を築く～

（令和2年8月 金融庁）

「地域の支援態勢の実効性を確保していくためには、地域の関係者（金融機関、支援協議会、保証協会、税理士等）が**連携して事業者支援を進めていく**ことや、金融機関の現場職員の間で、**地域・組織を超えて事業者支援のノウハウを共有**する等の取組みが重要」

金融仲介機能の発揮に向けたプロGRESSレポートP44

（令和2年10月 金融庁）

「今般の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、まさに、金融機関の果たす経営改善支援の役割がこれまで以上に期待されるようになってきているが、事業者支援には、事業者から依頼を得ることのできる**専門的なノウハウと経験**が必要であり、地域金融機関の人材全体の支援能力を向上させるためには、そのような**ノウハウの横展開**が必要である。」



追手門学院大学経営学部長
水野浩児教授



財務省
近畿財務局

地域金融機関職員が、専門機関を含め、

「地域や組織を超えて連携できる関係性を構築し、事業者支援の事例等を共有しながら、実戦で使えるスキルを獲得できる機会を設けることができないか？」

との考えから、本企画の実現に至りました。

－ 企画概要 －

近畿財務局ちほめんでは、地域経済の活性化に資する取り組みを引き続き企画・検討し、実行に移してまいります。

- ご相談・ご要望はこちらまで
近畿財務局 総務課企画係 (TEL:06-6949-6390 Mail:kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp)
- ちほめんNEWSのバックナンバーはこちら <https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>

本企画のポイント

- コロナ禍における企業支援の事例や担当者が抱える案件についてのケーススタディを実施。
- 管内信金・信組から応募のあった16機関16名による少人数制のゼミ形式で金融機関担当者同士のネットワーク構築を支援
- 全3回毎月開催し、各回ともに事業者支援に造詣の深い専門家を招へい

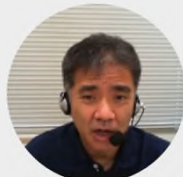
本ゼミでは、水野教授をはじめ、多数の専門家の方々よりご協力を賜りました。



日本公認会計士協会近畿会からは、4名の公認会計士の方々にご参加いただきました。



経営委員会
委員長 安井 聖美 氏



経営委員会
副委員長 吉永 徳好 氏



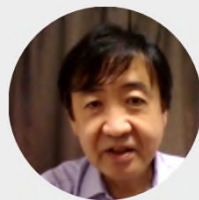
経営委員会
委員 吉野 慎佑 氏



経営委員会
委員 杉本 和也 氏



追手門学院大学
経営学部長 水野 浩児 氏



金融庁地域金融企画室
室長 日下 智晴 氏



地域金融ソリューションセンター
代表 竹内 心作 氏



大阪弁護士会からは、中小企業支援センターより、小林弁護士にご参加いただきました。



中小企業支援センター
事務局長 小林 寛治 氏

経験・知識豊富な教授方にご協力いただき、ゼミを実りあるものとすることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

－ 当日の様子 － 第1回

テーマ ＝ 事業性評価に必要な対話のポイント

● 第1部 水野教授による講義

『コロナ禍における企業支援の在り方・手法』

第1部では、水野教授から、本ゼミの目的について説明がありました。また、「コロナ禍における企業支援の在り方・手法」と題し、事業性評価に必要な対話のポイント等について講義いただきました。また、地域の金融機関や支援機関が連携し、事業者支援に取り組むことの重要性（＝地域経済エコシステム構築の必要性）についてお話がありました。



ローカルベンチマークガイドブック

講義では、水野教授が編纂に携わられたローカルベンチマークガイドブックについて内容紹介がありました。



↑ グループワーク終了後

参加者全員が参加し、水野教授からフィードバックを頂きました。

第1部で水野教授から提示された課題について、4グループに分かれ、参加者間で討議が行われました。

● 第2部 グループワーク

『ケーススタディ』

グループワークでは、参加者それぞれが実際の業務経験も踏まえながら、事業方針や経営者の相続状況のほか、財務状況などといった支援を行う上での課題について意見を交換しました。また、金融庁地域金融企画室の日下智晴室長と日本公認会計士協会近畿会経営委員会の安井聖美委員長、吉永徳好副委員長が各班を巡回し意見交換に参加するなど、議論の活性化が図られました。

グループワーク終了後には、参加者からは、「普段接点のない他の信金・信組と話せたことで、今後、横の連携につなげていきたい。金融機関同士が協調すれば、地域にもっと貢献できると感じたし、自身のモチベーションにも繋がる。」といった声が聞かれるなど、企業支援を行ううえでの課題共有のほか、金融機関同士のコミュニケーションの促進も図られました。



↑ Bグループの様子

水野教授や、公認会計士の方々にも加わっていただくことで、議論がより活性化されました。

－ 当日の様子 － 第2回

テーマ = 専門家（士業）との連携の重要性

● 第1部 水野教授・安井公認会計士によるセッション

『専門家（士業）との連携を通じた地域金融人材の育成』

冒頭に、水野教授より、弁護士や公認会計士をはじめとする専門家は金融機関職員から見て敷居が高い存在かもしれないが、金融機関が事業者支援を行う上では、専門家とのネットワークを活用したコンサルティング機能の活用が急務であり、本日の講義を通じて身近に感じてほしいとの挨拶がありました。

安井公認会計士からは、管理会計の知識を生かし、事業者が利益を出せるような支援計画を策定できるという、事業者支援における公認会計士ならではの強みについて説明後、「実務をわかっているのは金融機関の実務担当者であり、これからの事業者支援では、専門家及び金融機関職員のそれぞれの強みを生かした連携が必要となる」との発言がありました。



第2部では、3グループに分かれ、各自が持ち寄った事例について、参加者間で検討・討議が行われました。



● 第2部 グループワーク 『企業支援の好事例について』

グループワークでは、参加者から事前に提出された企業支援事例を題材に、班別に討議が行われました。参加者からは、ビジネスマッチング事例・コロナ禍での事業者支援事例をはじめ、事業者の課題解決につなげた成功事例・現在も支援中の事例等、多様な事例が持ち込まれ、題材として検討が行われました。

終了後には、参加者及び会計士の教授方の連絡先が掲載されたメールアドレスリストが配布されました。

各自の事例に対して、参加者同士で定性・定量面双方から積極的に質問が行われるなど、参加者それぞれの知見や経験をもとに様々な意見が飛び交い、議論が活性化しました。本部・支店の経験年数等、様々な出自を持った金融機関職員が参加する本ゼミならではの特徴かもしれません。



－ 当日の様子 － 第3回

テーマ = ソリューション営業のポイント

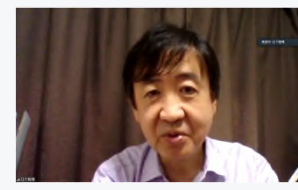
● 第1部 水野教授・竹内氏・日下室長によるフリーディスカッション

『現場目線からのソリューション営業
～地域金融機関の帯同訪問からみたソリューション提案のポイント～』

竹内教授からは、日々の取引先への金融機関との帯同訪問を通じて感じた、ソリューション提案のノウハウ・引き出しの広げ方について説明がありました。また、スキルアップのポイントとして3点ご紹介いただきました。

併せて、「本ゼミは普段聞くことのできない他機関の事例に触れることができる大変贅沢な場、ぜひ自分の取引先に置き換えて各自考えていただき、応用展開していただきたい」と、参加者への激励がありました。

それに関連して、日下室長からは、金融庁入庁時に開設された地域金融生産性向上支援室での自身の経験・ノウハウ共有サイト開設の経験に基づき、事業者支援における担当者間での事例共有の重要性について発言がありました。



ポイント

支援先と新しい展開を
つくっていくための
発想力・想像力

知恵

事例

公的機関

支援先に紹介できる
ような事例の集約

専門家の活用

● 第2部 グループワーク

『ソリューション提案の好事例について』

グループワークでは、参加者が3グループに分かれ、3回全体のゼミ内容を踏まえ、ソリューション提案の事例について発表・検討を行いました。3回目ということもあり、参加者も慣れた様子で、どのグループでも、多様な事例が題材となる中、進行役を中心に積極的に質問や意見のやり取りがありました。

グループワーク後、参加者からは、「ソリューション営業のためには、課題に対してスピーディーに対応・レスポンスできるような環境づくりが重要であり、それがお客さんとの信頼関係の構築につながる」「支援先企業はもちろん、その向こうにいるエンドユーザーの立場に立ったソリューション提案が必要」等、前向きな発言がありました。



↑Bグループの様子
参加者間での仲間意識が醸成されました。

－ 今後の展開 －

事例集でノウハウを共有！

✓ 今回のゼミで参加者の皆様より共有いただいた事業者支援事例を集約した事例集を作成し、後期開催で活用する予定です。
(個別金融機関の名称等は伏せさせていただきます。)

✓ 地域金融機関における人材の支援能力のさらなる向上に向け、地域・金融機関の垣根を越え、知識・ノウハウの横展開をすることができないか、引き続き検討を進めてまいります。



↓ 「地方創生・中小企業支援」シンポジウム
(6月8日・エコシステム企画の一環として開催)



後期開催

「知の共有」の推進

専門家との連携促進

本企画の継続開催決定！

✓ ご好評につき、後期開催が決定いたしました！後期ゼミにおいても、水野教授を中心に、企業支援のために必要な知識の講義や、参加者による企業支援に関するグループワーク形式でのケーススタディを予定しております。

✓ 協同組織金融機関ご担当者様同士の、横の連携だけでなく、土業をはじめとした他業種との連携を深めていただける機会にもなると考えております。

好事例の蓄積

エコシステム企画と連携！

✓ 各種土業や関係団体活動との意見交換・シンポジウムの開催を通じ、地域経済エコシステムの形成を目的に活動する、当局ちほめんによる「エコシステム企画」と連携いたします。

✓ エコシステム企画にて築いた人脈を本ゼミに招へいする等、相互に連携を深めるとともに、金融機関と土業等を始めとする専門家との関係の構築を支援し、「地域経済エコシステム」の形成を目指します。

アフターコロナにおける地域企業支援の人材育成へとつなげてまいります。